



介護の魅力と価値を高めるのはあなたです

介護福祉経営士 ニュース KFK News

2018
4.25
No.46

CONTENTS

介護福祉経営士

活動レポート Vol.16

関東支部

「石井先生と語ろう♪
W改定カフェ」

2

第3回「介護福祉のみらい」
作文コンクール
作品募集開始

4

●合格者の声
●介護福祉経営士
テキストのご案内

5

●今月の「介護ビジョン」
●今月の書籍紹介

6

INFORMATION

7

イベント掲示板

8

【介護福祉経営士 活動レポート Vol.16】

関東支部「石井先生と語ろう♪ W改定カフェ」

栄養分野の重要性が 増した施設系サービス 新タイプの介護医療院が 目指すものを探る



一般社団法人
日本介護福祉経営人材
教育協会

お問い合わせ先

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会 事務局
☎ 03-3256-0571 <http://www.nkfk.jp>
制作：株式会社日本医療企画
編集・発行人：林 諄
〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町17番地
ニッテン神田ビル3階

2017年12月から毎月開催している、介護報酬・診療報酬改定の勉強会「石井先生と語ろう♪ W改定カフェ」(日本介護福祉経営人材教育協会関東支部・日本医療経営実践協会関東支部・日本栄養経営実践協会関東支部共催)。多摩大学医療・介護ソリューション研究所フェローの石井富美氏が講師を務めるこの“勉強会”は、介護報酬・診療報酬改定のポイントを学ぶとともに、介護福祉経営士をはじめとする経営人材が集まり、自由に意見を交わし合えるワールドカフェ方式の勉強会である。



関東支部「石井先生と語ろう♪ W改定カフェ」 栄養分野の重要性が増した施設系サービス 新タイプの介護医療院が目指すものを探る

栄養分野が重要視されるウラにある 低栄養への対策強化の理由とは？

3月28日に開催された第4回のテーマは「施設系サービス(介護医療院、特養、老健)のゆくえ」。廃止が決まっている介護療養病床の転換先として新設された介護医療院をはじめ、施設系サービスに対する評価と今後の方向性について学ぼうと、約20人が集まった。

冒頭、今回の介護報酬改定に係る基本的な考え方のおさらいから、入居入所施設系サービスの主な改定項目を整理した石井氏は、「栄養、口腔衛生といった項目が、すべての施設に関わってきている」ことを強調し、「そのことがどのような意味を持っているのかについて、まずは話し合ってみてください」とグループディスカッションを実施。ディスカッションでは参加していた栄養経営士の方が中心になって議論する様子が見られ、「誤嚥性肺炎の予防を目的としているのではないか」「一人ひとりの患者さんに合わせた栄養管理が求められているのではないか」など、活発な意見交換がなされた。



研究会講師を務める石井富美氏

その後の解説で石井氏は、「栄養分野の重点化の一番の目的は重症化予防」と話し、「施設は住まい。だからこそきちんと食べることでフレイル予防に努めて、入院状態にならないようにしていくことが施設には求められる」と話した。さらに栄養改善加算が外部の管理栄養士の実施でも算定できるようになったことで、栄養ケアステーションなども含めた外部機関との連携も活発になってくるのではないかと今後の展望を語った。

また、「再入所時栄養連携加算」の新設など、入院先の医療機関との栄養管理に関する連携についても新たに評価されていることにもふれ、「施設側もちろんだが、病院側が施設に戻すためのサポートをしなさいということでもある。介護・医療のそれぞれが歩み寄ることが求められているが、介護側では管理栄養士が不足している現状をどうしていくかが課題」と現状の問題点を強調した。

介護保険施設の役割が明確化されるなか 介護医療院の果たすべき役割とは？

石井氏が次に挙げたテーマは「老人保健施設・介護医療院」。この4月から、新たな介護保険施設の類型として誕生した介護医療院について石井氏は、「私自身、最近になって、これまで介護療養病床を持っていて老健に転換せずにいた医療機関の方から『介護医療院に転換しようかと思うんだけど』というご相談を受けるケースが出てきている」という現状を語り、「実際にどのくらいの点数がつくのか、様子を伺っていた医療機関が今回の点数を見て『これならいける!』という判断になったのかなと考えている」と解説した。

表 介護医療院と介護老人保健施設の基本報酬について(単位/日)

	介護医療院						介護老人保健施設		
	I型-1	I型-2	I型-3	II型-1	II型-2	II型-3	強化型	基本型	その他型
要介護1	803	791	775	758	742	731	818	771	756
要介護2	911	898	882	852	836	825	892	819	803
要介護3	1,144	1,127	1,111	1,056	1,040	1,029	954	880	862
要介護4	1,243	1,224	1,208	1,143	1,127	1,116	1,010	931	912
要介護5	1,332	1,312	1,296	1,221	1,205	1,194	1,065	984	964

※介護医療院については、療養室等の療養環境の基準を満たさない場合には25単位を減算する

出典：厚生労働省資料一部改編

さらに、「病院の名称をそのまま使用できること、転換後もトップは“院”長でいられることなど、医療従事者が持つ介護保険サービスへの移行に伴う抵抗感にも配慮されていることが、転換へのハードルを下げているのではないかと分析し、介護医療院への転換は今後も増えていくのではないかと予測した。

また、2021年3月末までの期限付きで「移行定着支援加算」が設定されていることにもふれ、「算定できるのはこれから3年の間になるが、3年後には次の介護報酬改定がある。それまでに転換しておかないと、そこから先はまた扱いが変わってくるかもしれないということも考えておく必要がある」と注意を呼びかけた。

介護医療院の基本報酬について石井氏は、要介護1・2と3以上でかなり開きがある設定となっていることをポイントに上げ、「現在、特別養護老人ホームは“終の棲家”としての役割があり、要介護3以上でなければ入所できない。一方、老人保健施設は在宅に戻すための中間施設という位置付けであることが今回の改定でより明確になった。介護医療院では在宅に戻るのが困難で、かつ一定程度の医療を必要とする人を見てほしいということではないか」と厚労省の意向を推測、それぞれの介護保険施設によって求められる役割が明確化されてきており、その役割をしっかりと理解することが重要であると強調した。

「同一建物等」の範囲が拡大 地域包括ケア推進に向け、 訪問系サービスの今後は?

3つ目のテーマとして石井氏は、訪問系のサービスにおけるポイントとして、「同一建物等」の範囲がこれまでは「有料老人ホーム等(養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅)に限る」とされていたものが、それ以外にも拡大されたことを指摘。有料老人ホーム等以外の一般集合住宅も対象となる。さらに事業所と同一、または隣接敷地内の建物に居住する利用者が1月あたり50人以上の場合は減算幅を現行の10%よりも拡大するため、高齢者住宅の併設事業所への影響が懸念される。

地域包括ケアシステムの推進に向け、「在宅で過ごせる人は施設ではなく在宅で」という流れのなか、施設系だけでなく、訪問系サービスのあり方も今後変わってくる可能性もあるのではないかと話し、次の改定以降も動向をチェックする必要があるそうだと注意を促した。

W改定カフェは4月で終了となるが、ワールドカフェ方式の研究会は参加者からも「勉強になる」という声が多いこともあり、今後もテーマを変えて継続していく予定だ。

開催案内は協会のホームページ等に掲載する。

関東支部：参加者の声

「介護医療院が誕生することで、介護保険制度への負担が大きくなるのではないのでしょうか。介護医療院のない市町村の行政は財政負担が軽減するのかもしれないと思うと、それぞれの自治体の方針についても注視したいと思います。また今後の改定の方向性等を踏まえて考えると、介護保険施設の経営において、小さな法人は生き残れないのではないかと考えました」

「介護保険制度の詳細まできちんと把握できていなかったもので、今回の改定には栄養分野にここまで力が入っていて、しっかりと加算がつくということを知り驚きました。アウトカムをどのように出していけるかを考えないといけないと感じます。また、外部の管理栄養士ではやはり限界があると思うのですが、栄養ケアステーションに有能な栄養士が入っていくことでケアステーションの価値が高まれば良いと考えます」



私たちだから伝えられることがある—

第3回「介護福祉のみらい」作文コンクール 作品募集開始

一人ひとりの想いが、介護福祉の新たな未来を創ります。
これからの社会を担うみなさんの声を届けてください。

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会は、将来を担う中学生、高校生に、介護福祉の大切さを知り、未来について考える機会をもってもらうことを目的に、第3回「介護福祉のみらい」作文コンクールを実施する。

昨年は394編の作品が集まり、黒澤貞夫審査委員長（一般社団法人介護福祉指導教育推進機構代表理事）のもと、厳正な審査が行われ、「高校生の部」4作品、「中学生の部」2作品が表彰された。

本コンクールは、福岡市内で開催される「第3回全国介護福祉総合フェスティバル」の関連事業として位置づけられ、9月29日（土）・30日（日）同フェスティバル会場において最優秀賞等が発表される。

応募に関しては、<http://www.nkfk.jp/sakubun2018/>に詳細が掲載されている。



昨年度表彰式より

【応募要項】

【趣 旨】	将来を担う中学生、高校生が介護や福祉の大切さを知り、未来について考え発表する機会とします。	
【募集期間】	2018年4月2日（月）～6月29日（金）※郵送の場合は必着	
【応募資格】	中学生、高校生の方	
【テーマ】	以下のテーマ（課題）の中から好きなもの一つを選んで、あなたが感じることを、考えることを自由に書いてください。	
	■中学生の部／ 高校生の部	<ul style="list-style-type: none"> ●介護や福祉に関する実体験等を通して感じたこと、考えたこと ●自分の老後を想像して考えたこと ●これからの介護や福祉に関する私の意見
【応募方法】	<ul style="list-style-type: none"> ・1,200字以内（原稿用紙、ワープロ原稿、縦書き、横書き、いずれも可。書式自由） ・必要事項を記入の上、以下のいずれかの方法でお申し込みください。送付先は最下段に記載しています。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 郵送 2. メール送信（wordファイル添付）※メールの場合、件名は「作文コンクール」と記載してください。 ※学校単位での応募については、下記事務局までお問い合わせください。 	
【表彰】	最優秀賞／優秀賞、他 [賞状・副賞] それぞれ「中学生の部」「高校生の部」を表彰。いずれも若干名とする。 受賞者には所属する学校において賞状・副賞の授与を行います。	

お問い合わせ・お送り先

一般社団法人 日本介護福祉経営人材教育協会 「『介護福祉のみらい』作文コンクール」事務局
 〒101-0042 東京都千代田区神田東松山下町17番地 ニッテン神田ビル3階
 TEL.03-3256-0571（平日のみ 10:00～12:00、14:00～17:00）
 メールアドレス：kaigo_sakubun2018@nkfk.jp



介護事業立ち上げの夢のため 「介護福祉経営士1級」を目指す

沼崎 竜太 ●ぬまざき・りゅうた 介護福祉経営士2級

在宅生活を望む高齢者支援に やりがいを感じる日々

私が介護の道を選んだのは、高校の担任の先生からのアドバイスがきっかけでした。進路に行き詰っていたころ、「お前は世話好きだから、人のためにできることが向いている」と言われ、自分に何ができるのか模索した結果、介護業界であればやりがいを持てるのではないかと考えたのです。

現在、療養病棟で介護福祉士として14年間勤務しています。これまで通り自宅で生活を続けることを望んでいる高齢者の希望が少しでも叶う手助けができればと、病院における介護に興味を持ったことがはじまりでした。

患者様が笑顔を取り戻し「ありがとう」と声をかけてくださった時は一番嬉しく、この仕事をしていて良かったと思います。また、リハビリや日常生活動作を少しでも獲得し、動けるようになって退院を迎えた患者様を見届けた際にはやりがいを感じます。

高齢化が進み、在宅生活を継続するための日常生活支援を必要とする高齢者が増えるなか、公的保険外サービスがニーズに応じて行けるよう、豊富な選択肢を提供できるようになることを介護福祉・医療業界には期待しています。

夜勤業務や子育ての合間をぬって 勉強時間を確保

将来、自分自身で介護事業を立ち上げることが私の夢です。事業立ち上げを目指す上で、事業所の経営にはどのような知識が必要なのかを知り、経営にまつわる資格を取

得しておきたかったことから、まずは「介護福祉経営士2級」資格認定試験の受験を志しました。

受験を迎えるまで大変だったことといえば、夜勤業務や子育ての合間をぬって勉強時間をつくることでした。夜、子どもたちが寝静まってからの2時間が私の唯一の勉強時間。はじめは子どもたちと一緒に眠ってしまうこともありましたが、慣れてくるとテキストを読むことが日課になり、苦にならなかったことを思い出します。

そんな私にとって、CBT方式の試験は、自分の好きなタイミングで受験できる点が良かったです。また、ほぼ毎日のように受験できることで受験者が一堂に集まらないため、周囲の音が気にならず集中して試験を受けることができました。

勉強を通して、介護保険や医療に関する知識を習得できたことで、退院支援を行っていくなかで患者様に多くの選択肢を提供できるようになりました。今後は、「介護福祉経営士1級」を目指して勉強を続けていきたいと思っています。

介護・医療・地域の 架け橋になりたい

今後の目標ですが、今の職場でも、地域に貢献できるスタッフを育成し、さらに活動を強化して、同じ地域の他施設と交流を深めて情報共有を行うといった取り組みを進めていこうと考えています。

そして、高齢者の方をはじめ地域の方が安心して生活できる、そんな場を提供していきたいと思います。

介護・医療・地域がしっかりと連携し、滞りなくサービスを提供できるよう、そして、自分がその架け橋となれるように、これから取り組んでいくつもりです。

介護福祉経営士テキストのご案内

介護福祉経営士テキストシリーズは、「介護福祉経営士」の試験科目に対応しています。

いまなら「介護福祉経営士2級資格認定試験対策—合格サポートブック—」がもらえる!!

<p>介護福祉経営士 1級試験 準拠</p> <p>実践編 全11巻 セット価格: 25,710円(税込)</p>	<p>介護福祉経営士 2級試験 準拠</p> <p>基礎編 全10巻 セット価格: 23,660円(税込)</p>
---	---

「合格サポートブック」とは

- 「介護福祉経営士テキスト」基礎編(10巻)各巻の重要ポイントの解説を掲載
- 予想問題を掲載
- 第1回「介護福祉経営士2級」資格認定試験で実際に出題された問題を一部掲載。

※解説は(株)日本医療企画によるものです。

テキストのお申し込み、お問い合わせは株式会社日本医療企画ホームページへ
▶<http://www.jmp.co.jp/>

地域のニーズをすくい上げ
地域から超高齢社会を支えていくための
視点を具体的事例とともに掲載

地域介護経営

地域 特集

まちぐるみの“タコ足ケアシステム”が 住民をつなぐ 千葉県多古町

ブランド米「多古米」で知られる、千葉県の北東部に位置する多古町。1954年に4町村が合併し、最大で2万2,000人だった人口は現在1万5,000人を切り、深刻な少子高齢化と人口減少に直面している。そうしたなか、町内では商店街や学校、町役場、介護事業者の人々がゆるやかにつながり、支え合う、町独自の仕組み「タコ足ケアシステム」を構築。本特集では、学校関係者、介護・福祉関係者の証言を織り混ぜながら、多世代で築くコミュニティの在り方を追う。



今月の 書籍紹介

看護師のしごととくらしを豊かにするシリーズ④

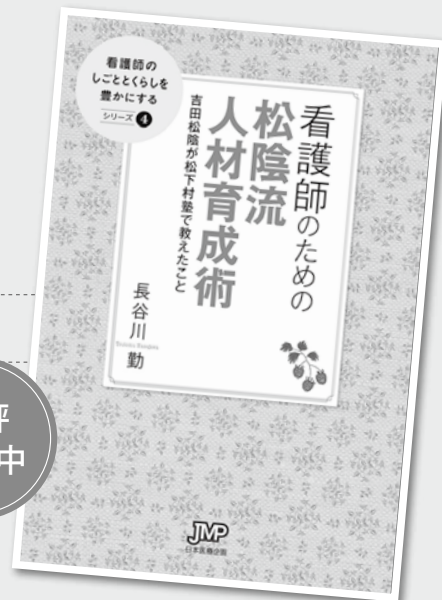
看護師のための 松陰流人材育成術

吉田松陰が松下村塾で教えたこと

教育の名手であった吉田松陰から、
自己教育や人材育成のあり方を学ぶ!

高杉晋作や久坂玄瑞、伊藤博文、山縣有朋といった、幕末維新から明治にかけて活躍した逸材を松下村塾から輩出した吉田松陰。松陰が松下村塾で弟子の育成にあたったのは、わずか2年。それほどまでに人を惹きつけ、志に燃えさせ、モチベーションを保たせた松陰の人の育て方に、マネジメントのヒントが必ず見つかる!

好評
発売中



著者略歴

昭和21年9月3日、群馬県勢多郡黒保根村(現桐生市)に生れる。松蔭大学にて非常勤講師として「吉田松陰論」を担当する。平成25年4月より同大学客員教授。各地の市民大学講座や講演も多数こなし、幕末から明治維新を主題として行う。平成27年、NHKラジオ講座「歴史再発見」で「松陰と幕末・明治の志士たち」を担当。

- 著者: 長谷川 勤 (松蔭大学客員教授)
- 定価: 1,620円(本体価格1,500円+税)
- 体裁: 四六判/144ページ
- ISBN: 978-4-86439-627-1 C3030

INFORMATION

理事会、支部、事務局からのお知らせをお伝えします

「介護福祉経営士」資格認定試験 合否判定の際、科目別の得点率が 表示されるから 得意分野と苦手分野を把握できます！

「介護福祉経営士」資格認定試験は、2018(平成30)年1月より、全面的にCBT方式に移行しました。

CBT方式の採用で、試験会場は全国約200会場に増え、自分の予定に合った日程、時間に受験することができるようになりました。これにより、より多くの方々に受験機会が広がり、介護福祉業界のマネジメント人材として活躍していただけるよう、受験しやすく役に立つ教育システムとして進化します。

詳細は、本会ホームページ(<http://www.nkfk.jp/>)にて随時更新します。

【CBT方式による4つのメリット】

- 1) 自分のペースで無理なく学習。自信がついたら受験を申し込み。
→ 推薦図書に『介護福祉経営士テキスト』(全21巻、発行:日本医療企画)があります。
- 2) 自分の予定に合った日程、時間にチャレンジできます。
→ 従来の試験日年3回(1級は年1回)から、年末年始を除き毎日受験可能です
(試験会場によって異なります)。
- 3) 試験会場はご希望の会場を選べます。
→ 従来の全7~8会場から、全国約200会場に大幅に増えます。
- 4) 試験が終わったらその場ですぐに合否をスピード判定。合格すれば証明書が発行されます。

CBT方式とは……

CBTとはComputer Based Testingの略称で、問題用紙やマークシートなどの紙を使わず、パソコンで受験する方式のテストです。特定の受験日に一斉実施する紙ベースの試験とは異なり、全国の会場にて随時(毎日*)受験が可能となります。受験者は、会場と日程をWeb上で予約し、当日は会場のパソコンで受験します。

※年末年始を除く。試験会場によって異なります。

介護福祉経営士が知っておきたい！ イベント掲示板

介護福祉経営士に必要な知識や情報が得られるイベントを、支部の研究会を中心に紹介。スキルを磨き、経営士同士が切磋琢磨できる場として人気の研究会も多いので、ぜひ参加しよう。

日本医療企画

介護現場は、経営人材とICT活用でここまで変わる！ 次世代介護経営セミナー

訪問介護・看護、在宅型有料老人ホーム、サービス付高齢者向け住宅の経営者や管理者に向けたセミナーを開催する。
2018年度介護報酬改定を受け経営環境が大きく変わるなかで、「ICT活用による介護記録の電子化」による業務改善・経営効率化やICT導入の推進役としての経営人材の役割について紹介。具体例を挙げながら、ICT活用のポイントやメリットをわかりやすく解説する。

■日時：2018年5月18日(金) 14:00～17:00

■内容：

セッションⅠ

「介護報酬改定にどう対応するか」 訪問介護・看護の経営のポイント
講師：荒井信雄氏(株式会社さくらケア代表取締役)

セッションⅡ

「介護事業におけるIT導入のポイントとCare-wing(介護の翼)のメリット」
講師：福島成典氏(株式会社ロジック取締役)

セッションⅢ

「介護福祉経営士が創る訪問介護の新たな経営モデル」
講師：吉田真一氏(株式会社でいくにてい代表取締役)

セッションⅣ

「介護福祉経営士の資格のとり方・活かし方」
一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会
※講師・プログラムの内容は予定です。変更になる場合がございます。

- 会場：日本医療企画 ニッテン神田ビルセミナールーム
(東京都千代田区神田東松下町17番地 ニッテン神田ビル3階)
※2018年4月に「もとみやビル」より改称
- 参加費：協会会員3,000円、一般5,000円
- 定員：50名
※定員になり次第、締め切らせていただきます
- 後援：一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会
- 協賛：株式会社ロジック



お問い合わせ

株式会社日本医療企画
TEL.03-3256-2885

高齢者住まい事業者 団体連合会

経営者セミナー & 交流会 介護人材の確保策を考える ～厚生労働省福祉人材確保対策室長とともに～

高齢者住まい業界の最大の課題である「人材確保」について官民の知恵を絞り、取り得る対策を考えるセミナー。厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室長の柴田拓己氏が講演し、その後は業界の取り組み紹介や意見交換を行う。セミナーの後は同会場にて懇親会があり、経営者同士の交流を深めることもできる。

■日時：2018年5月18日(金) 16:00～18:20(懇親会18:30～)

■内容：講演「厚生労働省の介護人材の確保対策と事業者への期待
～外国人技能実習制度から介護の魅力発信まで～」

柴田拓己氏(厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室長)
意見交換会「高齢者住まい業界の介護人材確保策を考える」
パネリスト：国政貴美子氏(全国介護付きホーム協会代表理事、
ベネッセスタイルケア取締役副社長)

■会場：ロイヤルガーデンコモン(東京港区虎ノ門1-11-7 第2文成ビルB1)

■参加費：5,000円 ※懇親会費用を含む

■定員：80名 ※先着順受付

■申込締切日：2018年5月8日(火) 17:00まで

お問い合わせ

高齢者住まい事業者団体連合会(高住連)
TEL.03-3548-1130

高齢者住宅経営者 連絡協議会

第6回 高齢者住宅経営者連絡協議会シンポジウム

『介護人材不足に高齢者住宅経営者が真正面から向き合う!～介護人材不足私はこう乗り越える～』をテーマに、第1部で会員の経営者3名の発表、第2部で経営者、職員および福祉を学ぶ学生によるパネルディスカッションを行う。

■日時：2018年5月22日(火) 13:00～16:00

■内容：第1部「介護人材不足、私はこう乗り越える」

足立聖子氏(社会福祉法人伸こう福祉会理事長)

逸藤健氏(SOMPOケア株式会社、SOMPOケアネクスト株式会社代表取締役社長)

国政貴美子氏(株式会社ベネッセスタイルケア取締役副社長)

第2部「パネルディスカッション」

■会場：渋谷区文化総合センター大和田 さくらホール
(東京都渋谷区桜丘町23-21)

■参加費：無料

■定員：500名 ※先着順・要予約

お問い合わせ

高齢者住宅経営者連絡協議会(高経協)事務局
TEL.03-3292-3289

日本経済団体連合会

仕事と介護の両立支援の一層の充実に向けて ～企業における「トモケア」のススメ～

介護離職防止の啓発と、仕事と介護の両立ノウハウを広く発信し、介護をしながら働くことが当たり前の社会をつくるための活動を行う介護離職防止対策促進機構が共催するセミナー。

■日時：2018年5月21日(月) 14:00～17:00

■内容：第1部 基調講演

和氣美枝氏(一般社団法人介護離職防止対策促進機構代表理事)

第2部 パネルディスカッション「『トモケア』の事例企業」

■会場：経団連会館2階 経団連ホール南
(東京都千代田区大手町1-3-2)

お問い合わせ

一般社団法人介護離職防止対策促進機構 事務局
TEL.03-6277-5784

名古屋国際見本市委員会 公益財団法人名古屋産業振興公社

第21回国際福祉健康産業展 ～ウェルフェア2018～

少子高齢社会の進展と社会福祉を取り巻く環境が大きく変化しつつある中、全ての人々のQOL(クオリティオブライフ)をサポートする製品・サービス・技術を幅広く展示紹介する中部地区最大の福祉・健康産業展。共催フェアとして「おやのため、わたしのための総合施設展」「おやのため、わたしのためのシニアライフフェア」も開催される。

■日時：2018年5月17日(木)～19日(土) 10:00～17:00

■会場：ポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)

(愛知県名古屋市港区金城ふ頭二丁目2番地)

■入場料：無料

お問い合わせ

名古屋国際見本市委員会事務局・
(公財)名古屋産業振興公社
TEL.052-735-4831